

<第 176 回> 平成 26 年 1 月 16 日 (木)

「全国の受験生へのエール」交換について

今年も全国の仲間たちから熱いエールが届き、ご協力いただいた 19 道県 32 校 40 名に、全員分まとめたものをお送りしました。全部で A4 版 16 頁になりました。

ここでは、その一部を抜粋して紹介します。校名及び氏名は省略いたします。

神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校 校長 神戸秀巳

【北海道 A様】

北海道の大地は今、白銀の雪に覆われています。冷たく厳しい風も吹いています。しかし、冷たい風は私たちを鍛え、大地を覆う雪は、春には清流へと変わり、新たな芽吹きを潤します。

全国の受験生諸君。決戦の時を目前にした今、必ずやって来る春（夢への第一歩）を信じ、人を鍛える厳しい冬（受験）を力強く乗り越えて欲しいと願います。

【青森県 B様】

ここまでたどり着くのは大変だったことと思います。

やってもやっても、点数が上がらず投げ出したくなったこと。

やらなければならないのに、やる気が起きない自分につながりした日々。

周囲と比較して焦ったこと。

勉強する意味や将来が見えず不安になったこと。

そんな日々や、そんな想いを乗り越えて今ここにいるのだと思います。

よく頑張りましたね。

ここまで来たら大丈夫。後は前に進むだけです。

厳しい現実と立ち向かう時、私はいつもこう自分に言い聞かせます。

「なるようになる。命まで取られるわけじゃない」

大丈夫。大丈夫。頑張る。

【岩手県 C様】

3年前の入学式覚えていますか。震災により第一体育館は使えない。ステージのない第二体育館で急遽行った。華やかさもない、余震の続く中での入学式。日程も1週間遅れた入学式。教科書や参考書もそろわない。スタートから出遅れたために模擬試験の成績も芳しくなかった。（中略）

厳しい真冬の中でも諸君は、年末年始の休みもなく学校に登校し、黙々と課外授業に励んでいる。もちろん先生方も同じだ。頑張る仲間がいるから自分も頑張れる。

決して諦めないのは、自分の可能性を誰よりも信じているからだ。諦めない限り可能性は自分の手の中にある。たった1%の可能性でもこれからの努力で可能性は大きくなる。いま本気でやらなければ、自分の人生がどうなるのか分からない。自分の人生を切り開くのも自分である。最後まで自分の可能性を信じて頑張ろう！

【秋田県 D様】

いよいよ戦うときが来ました。

全国でなんと同じ世代の五十数万人が同じ日に戦うという一大イベントです。人生の中でこれだけのイベントに参加するのはこれが最初で最後かも知れませんね。

世の中には、様々な事情から参加したくてもできなかった人もいますのです。この「土俵」に立てただけでも、すごい事じゃないでしょうか。感謝しなくてはなりません。

現時点で、「完璧だ、もう何もやらなくてよい」と思っている受験生は、まずいません。「まだ足りない」、「不安で一杯だ」というのが正しい受験生の姿なのです。

だからこそ、前進でき、受験で成長できるのです。今持っているものを精一杯出せばよいのです。

さて、去年の得点分布表を見ました。

900点換算の総合得点分布は、多いところで10点の中に4800人がいました。一問4点とか5点だとすると、なんと一問で2000人以上違うことになります。

「たった一問で2000人」です。こう考えるとぞくぞくしますね。なので、君たちは是非「一問」にこだわって下さい。

最後の10秒でひらめいた事が2000人以上の違いを生むのです。

最後の最後まで、諦めずに戦ってきて下さい。

【宮城県 E様】

それぞれに目標を掲げ必死に頑張ってきたと思います。

その頑張りは必ず実を結ぶはずですよ。

みんな経験してきたことと思いますが、大事な試合で100%の力を出そうと思っても出せないものです。

当たり前のことでもできなくなるのが普通です。当たり前でできることを当たり前に出せば十分です。

普段以上の力を出そうとすれば焦ります。普段の力が出れば絶対大丈夫ですよ。

とにかく自分を信じ、力まず心を無にして問題に取り組みましょう。

皆さんが目標を叶え社会に羽ばたき大活躍することを期待しています。

【山形県 F様】

今がきついときかもしれないが、最後まで「食らいつく」気概を持って臨んでほしい。

先日、これまで添削などの指導でがんばってきた生徒が受験の報告をしてくれた。「結果はわかりませんが、最後まで食らいつくことができました。ありがとうございました。」そう伝えてくれた彼女の表情は、指導を始めた2ヶ月前とはまったく違う、たくましくなった表情だった。物事に立ち向かう「つらさ」は、人を鍛えることもしてくれると改めて感じた。

納得した心で終わり、次にスタートをきるができるように、もうひとがんばり！

これから「もうひとがんばりする受験生」に、言葉の「エール」をおくります。

◆「あきらめない自分がいる限り、チャンスは必ず訪れる」

(本校の先生の、剣道の師匠の方の言葉だそうです)

- ◆「過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる」
（とある先生の言葉より）
 - ◆「達成するまで、それはいつも不可能に見える」
（ネルソン・マンデラ）
 - ◆「世界陸上マラソン4位の中本とは、体調により練習を変えることのない選手である」
（BS-TBS 裸のアスリートⅡ より）
 - ◆「完璧だと思っても、もう一押しすれば、「おまけ」が手に入る」
（トーマス・エジソン）
- ＊ ＊ 体調に気をつけて、ベストパフォーマンスを発揮して下さい。
山形県より、応援しています。

【福島県 G様】

◇もしも、自分の思うように行かなかったときはこう、つぶやいてみよう。

「最後に、最高のドラマが待っている……」と。（今年の東北楽天イーグルスの優勝を思い出してもいい）受験に立ち向かっていくことが、皆さんを大きく成長させてくれるだろう。

◇震災直後に入学した生徒たちが、いよいよ受験です。本校では、仮設校舎での学習など恵まれた環境とは言えない中、3年間を過ごした生徒達が、その分、強い心を持って、皆さんとともに頑張ってくれると思います。

【茨城県 H様】

大学受験は、とても、とても大きく、特別な出来事かもしれない。

その圧倒的な存在感に、不安や緊張も高まるだろう。

しかし、本当に大切なのは、「平常心」である。

一流のアスリートは、毎試合、休むことなくフィールドに現れる。

一流のキャスターは、毎日、休むことなくテレビに現れる。

ただ日々の努力を続け、しかし適度に休み、少しずつ歩み続ける。

ただその延長線上に大事な舞台が待っているだけのこと。

極限の苦しみの中でこそ、しっかりと見つけてほしい。

未知の巨大な関門に打ち克つ、静かで、頑強な「平常心」を。

【埼玉県 I様】

センター試験5教科7科目は負担の大きな試験です。特に部活動との両立をはかる現役生にとっては時間との戦いでもあります。目指す大学に合格するにはセンター試験は乗り越えなければならない試験です。センター試験 50 日前集会では、私は次の言葉を紹介して受験生を激励しました。「諦めなければ限界はあっても無理ということはない。今は胸を張ってそのようにいえる」これはソチ五輪に向けてフィギュアスケート全日本選手権に出場する安藤美姫さんの言葉です。安藤さんの復帰は難しいと見られてきました。しかし出産後子育てと両立して予選を勝ち上がり、全日本出場を果たしました。これはその時の言葉で、困難であるが挑戦をし続ける皆さんにこそ届けたいと思っています。高校2年の

3学期からセンター試験までの13か月、皆さん一人一人は最も濃密な時間を過ごしてきました。真剣に本気に取り組んできた時間でした。皆さんはこれまで受験に備えて確かな準備をしてきました。自信を持ってチャレンジしてください。ご健闘を祈ります。

【神奈川県 J様】

人工知能を東京大学に合格させるプロジェクトが進んでいることが話題になりました。このプロジェクトの狙いは、知的な作業において何をコンピューターが分担し、何を人間がした方が効率がよいかを探ることだそうです。このようなプロジェクトが進めば、知的な作業において、コンピューターと人間が作業を分担しあう社会が到来するのもそう遠いことではないように思いました。そのような社会がどのようなものになるのかは、大いに議論されるべきものだと思いますが、それはさておき、とにかくコンピューターの劇的な進歩には本当に驚かされます。メガネや時計の形をした身に付けるコンピューターに、東大に合格できる知能が組み込まれたら、大学入試はどうなるのでしょうかね・・・。まあ、冗談はともかく、現代の技術革新はめざましく、より便利で生活しやすい社会の到来が期待されるのは事実だと思います。

ところが一方で、1000兆円を超えさらに増え続ける国の借金（皆さん、勉強で疲れた時に計算してみてください。毎日1億円を使い続けたとして、1兆円使うのに何年かかるかを。1000兆円とはその1000倍ですね。）や、例のないスピードで進む高齢社会がもたらす様々な問題など、日本には深刻な問題が山積しているのも事実です。

皆さんは、このような状況の中で大学に入学していきます。大学では、このような社会との関わりをさらに考えてください。大いに勉強してください。

これからの社会は皆さんを必要としていると思っています。より便利で生活しやすい社会をつくるために、また日本の深刻な問題に立ち向かうために、皆さんのような若い世代の、柔軟で明るい発想、頼もしい実行力、皆さんの優しい思いやりが不可欠だと考えています。期待していますよ。

最後になりましたが、体調管理を十分にしておいて、入試では力を存分に発揮してください。

【静岡県 K様】

何事であれ、自分の目の前のことにベストを尽くすことが、人生にとって大切です。人が何か全エネルギーを注いで取り組んだ時、結果は得られなくても、いつか必ず実を結びます。不安は付きまといますが、試験は自分との闘いです。

昨年、アンパンマンの作者の やなせたかし さんはお亡くなりになりましたが、託したその思いは「アンパンマンのテーマ」に残っています。その一節を届けます。

… 今を生きることで 熱いところ燃える
だから君は行くんだ微笑んで。
そうだ！嬉しいんだ生きる喜び
たとえ胸の傷が痛んでも。 …

アンパンマンのように、勇気をもって微笑んで試験に挑んでください。

【愛知県 L様】

未来への対話
受験の問題を解くこと、
それは、あなたと出題者の対話です。
一方通行では決してありません。
対話が成り立ったとき、
あなたの未来が開けます。
さあ！出題者との対話を楽しむために、
会場へ向かいましょう。
そこにはきっと、
わくわくする出会いがそこにあるはずです。

【岐阜県 M様】

「辛き冬 ともに歩みし 我が子らと 喜び分かつた 春の便り」

大学受験の喜びは、第一志望の大学に合格できたときに頂点に達する。

しかし、受験生にとって一番得るものが大きい時とは受験勉強に苦しんだり、センター試験や入試で緊張の中で戦っている時である。

苦勞すればするほど、得るものは大きく、人間として大きく成長する機会となる。

ニーチェの登山お話を少しもじってみました。

不況・就職難・先の読めない今日、夢や希望を持ち努力することは将来日本を背負って立つ君たちにとってとても大事なことです。

大学へ入れば道が切り開かれるわけではありませんが、「努力で勝ち取る経験」や「困難に立ち向かう経験」、何よりも「夢に立ち向かう経験」は君たちの人生を生き抜く大切な宝となるはずです。

その第一関門が「大学入試センター試験」です。

この1年間の総決算になるわけですが、何か特別なことをするわけではありません。

経験したことの無いような難問に出会うこともありません。

日々積み上げたものを整理し臨めばよいのです。

「焦らず、慌てず、諦めず」 自分の力を信じ頑張りなさい。

健闘を祈ります。

その後がさらに大切です。

栄冠を掴む人は最後まで諦めず頑張り続けた人です。

センター試験の結果に動じず、信じることをやりきった人たちです。

待ってますよ！ 春の便りを！

【三重県 N様】

あまり努力しなくて掴んだ合格より、努力して得た結果の方が輝いているし、意味があります。誰でもストレスはためたくないのだから安きに流れるでしょう。しかし、それを乗り越えた時に、真の成長や喜びが得られます。妥協せず、無理してでも高みを目指しましょう

う。高みを目指そうと努力するその過程が大切であり、その経験が清々しい人生につながっていきます。是非、清々しい世界を拝観しましょう。

【新潟県 ○様】

いよいよです。でも、焦らない。

君たちの歩んできた道は、決して平坦なものではないのでしょうか。でもその道は、たとえ石ころだらけだって素敵じゃないか。

焦らない。風にゆれる春の花が、君たちに会うことを待っています。

今不安ですか。そう、きっと皆不安です。でも、その心では、君たちの実力を発揮することはきっと難しいでしょう。失敗を恐れることが失敗なのです。自己ベストを出すことは不可能と考えますか。不可能とは臆病者の言い訳、そう、不可能とは言い訳に過ぎないのです。不可能とは事実ではなく単なる先入観。不可能とは、誰かに決めつけられることではありません。不可能とは通過点、不可能なんてあり得ない。

我々は、雪深い新潟の地にいます。この地で、生徒を育ててきました。我々の生徒達は、これから皆さんと戦うことになるのですが、それはほんの一瞬の出来事です。本質は違います。我々は、志の高い生徒を育ててきました。これから先、君たちと手を取り合って、この国の未来を担っていく、そんな生徒達がここにいます。我々の生徒達は、これから君たちと出会うことを楽しみにしています。君たちは一人ではない。いつの時代も、困難を乗り越えるのは若い力です。君たちが、存分に力を発揮することを期待します。

【広島県 P様】

いよいよ、勝負の時がやってきた。高い志を胸に勝負の舞台に立っていること、それが君たちの尊い姿なのだ。私は敬意を持って、君たちの姿を仰ぎ見ている。

何も恐れることはない。知らず知らずのうちに心身ともに着実に成長してきた自分自身、受験勉強の苦楽をともに過ごしてきた仲間との絆、何よりもこれまでずっと見守ってくれた家族の存在がある。きっと、君たちが大きな不安を目前に立ち止まりそうになったときに励まし、支え、後押ししてくれることだろう。

君たちは、持っているすべてをこの勝負にぶつけるがいい。

最後に、このことばを君たちに贈る。

「可能性があれば失敗を恐れず、何事も全力を尽くせ」（ジョー・ルーツ）
健闘を祈る。

【島根県 Q様】

受験生のみなさん

最後に頼りになるのはみなさん自身の鍛え抜かれた「魂」です。最後の最後まであきらめずに粘り抜いてください。

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」 上杉鷹山

【香川県 R様】

いよいよ入試の季節が冬の装いととも本格的に到来しました。今この瞬間にも、自らの進路希望を叶えるべく日々努力している皆さんのことを思うと、頭が下がるばかりです。

先日偶然見たテレビの中で、福永祐一騎手は努力について次のように語っています。

「努力する人は、努力しない人には負けない。でも、もっとも強いのは、努力を楽しんでいる人である。」

あなたは、受験勉強を、入試を楽しんでいるでしょうか。

更に続けて、福永騎手は語ります。

「伸びしろは増える。いろんな人にあってそうなれる。いろんな人と会って刺激を受けてそうなれる。自分で限界を決めていたことに気づいた。そこから楽しめるようになった。」

入試に向けて学んでいく中で、自分の知らなかったこと、今まで分からなかったこと、それらが少しずつ明らかになり、自分の智慧の一つとして蓄えられていく実感、心の世界が広がっていく実感、自らが成長していく実感。

泣いても、笑ってもあと少し。どうせやるなら笑いながら、みんなで楽しく乗り越えていこう！

【長崎県 S様】

この人ほど人生の辛酸をなめた人はいまい、と思われる一人に二宮尊徳（幼名金次郎）がいる。

1787年、相模国栢山村（小田原市）に中農の子として金次郎は生まれた。平穏な暮らしが一変したのは4歳の時だった。関東一円を襲った大風雨で酒匂川が氾濫、父の田地は荒地と化し、一家は貧窮のどん底に落ちてしまう。災難はさらに続いた。その荒地開墾の無理がたたると、父は47歳で他界した。金次郎、13歳の時である。その2年後、母が35歳で急逝する。母の死後、弟2人は母の実家へ、金次郎自身は父方の伯父の家へと、一家は離散を余儀なくされる。

伯父の家の野良仕事で働きずくめの毎日。だが注目されるのは、金次郎が学ぶことをやめなかったことである。芝刈りの山への往復さえ『大学』を手放さずに読み続けた。しかし「百姓に学問は要らない」という伯父は勉学を嫌った。それでも金次郎は深夜に夜着をかぶって行燈の火を隠し、本を読み続ける。だがそれも見つかって、「油がもったいない」と叱られた。金次郎は友人から借りた一握りの菜種を川土手にまき、収穫した菜種を油に変え、学び続けた。

金次郎が捨てられた稲苗を拾ったのは16歳の時。それを荒地に植えた。秋、1俵の粃（もみ）が獲れた。翌年、1俵の粃は5俵になった。

自然の恵みに人間の勤労を加える営みをこつこつ積み重ねると、大きな成果になる。金次郎は「積小致大」の哲理を貧窮との戦いから会得する。それは至誠、勤労、分度、推譲という実践哲学に発展し、金次郎を多くの農民を救う指導者に成長させていった。

立ちは大かた貧窮の壁。それを乗り越えようとする苦闘の中で、二宮尊徳という人格は育まれたのである。

形こそ違え、人生の壁は誰の人生にも訪れてくる。ただ、壁の前に立ちは大かたの時に、

人がたどる道は二つに分かれる。一つは壁に敢然と挑み、なんとしても乗り越えていこうとする道、もう一つは壁に圧倒され、萎縮し、逃避する道である。

壁に苦しみ、悩み、傷つき、苦悶し、格闘する中で、人は人格を成長させていく。壁はその人の能力をさらに高め、魂を磨き、本物の人物にするために、天が与えてくれる試練だということである。壁に対して、逃げてはならない。壁は私たちが何かを学ぶために、私たちの目の前に現れてくるのだ。そのことを肝に銘じておきたい。

(藤尾秀昭著 致知出版社「小さな人生論2」より)

明日の大学入試センター試験が、君を本物の人物にしてくれる

朝の来ない夜はない。春の来ない冬はない。

「未来への扉」を押し開けるのは皆様ご自身です。あと一息。頑張ってください！！